

市町村名		北谷町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	北谷町観光物産プロモーション事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ	
担当部課名	建設経済部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立	
事業内容	北谷町の知名度を一層向上させ、本町への観光客誘客推進と観光資源である地域特産品の効果的なピーアール及び販路拡大支援を図るため、県外、海外における、観光誘致対策事業、誘客プロモーション事業を展開する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和元年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	11,036	14,790	8,600	10,000	12,121
		(b) 予算現額	11,036	14,790	8,600	10,000	12,121
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	11,036	14,790	8,600	10,000	12,121
	B. 執行済額		8,296	12,752	7,900	8,939	12,097
	うち交付金充当額		6,518	10,000	6,000	7,000	9,000
	次年度繰越額		-	-	-	-	-
	執行率(%) (B/A)		75.2%	86.2%	91.9%	89.4%	99.8%
予算の状況の説明		不用額24千円については、委託の契約残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	国内プロモーション2ヶ所実施	目標	(2ヶ所)	(2ヶ所 観光啓発物配布 3,000個)	(3ヶ所 観光啓発物配布 3,000個)	(2ヶ所)	
		実績	2ヶ所	4ヶ所 観光啓発物配布 9,300個	3ヶ所 観光啓発物配布 5,300個	2ヶ所	
	海外プロモーション3ヶ所実施	目標	(1ヶ所)	(1ヶ所 観光啓発物配布 2,000個)	(2ヶ所 観光啓発物配布 2,000個)	(3ヶ所)	
		実績	2ヶ所	2ヶ所 観光啓発物配布 9,600個	2ヶ所 観光啓発物配布 4,300個	3ヶ所	
	ちやたんブランドロゴデザインの企画運営及び媒体露出	目標	()	()	()	(ロゴ製作 媒体露出)	
		実績				ロゴ製作完了 媒体露出実施	
	外国人観光客へニーズ調査実施	目標	()	()	()	(ニーズ調査 実施)	
		実績				ニーズ調査 完了	
多言語対応窓口の設置、多言語観光情報パンフレット等の制作等	目標	()	()	()	(多言語窓口設置 パンフレット制作)		
	実績				多言語窓口設置 パンフレット制作 完了		
達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> ・国内プロモーションについては、予定通り2拠点(名古屋・横浜)実施し、観光啓発物3,500個を配布した。 ・海外プロモーションについては、予定通り3拠点(タイ・台湾・韓国)実施し観光啓発物6,300個を配布した。 ・「ちやたんブランド」ブランドメッセージ及びロゴマーク制作を行い、それらを活用した媒体露出(Web・イベントPR等)を図った。 ・北谷町観光情報センターへ多言語対応職員を配置し、外国人観光客へアンケート調査を実施した。併せて多言語観光情報パンフレットを制作し、配布した。 					

成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	・観光情報センター利用者数 57,440人以上 (うち外国人利用者数40,910人以上)	目標	()	28,000人 (16,000人)	41,000人 (26,000人)	57,440人 (40,910人)	()
		実績		47,533人 (31,511人)	63,737人 (44,947人)	74,514人 (49,532人)	
	外国人観光客へニーズ調査の完了	目標				ニーズ調査 実施	
		実績				ニーズ調査 完了	
【R1成果目標】 外国人観光客ニーズ調査を踏まえ、観 光誘客や外国人観光客の利便性の向 上に係る観光振興施策を実施し、アンケ ートによる満足度80%以上	目標					満足度 80%以上	
	実績						
進 捗 状 況 説 明	<p>○北谷町観光情報センターの利用者数が増えた。</p> <p>・全体の利用者数が前年度と比べ10,777人増加の74,514人となり、130%の達成率となった。</p> <p>・うち外国人利用者数は前年度と比べ4,585人増加の49,532人となり、121%の達成率となった。</p> <p>○外国人観光客へのニーズ調査を完了した。</p>						

取組の 検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>(観光情報センター年間利用者人数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西海岸に位置する美浜地区においては、今後さらに宿泊施設が増える見込みである。北谷町を訪れる観光客の満足度を向上させるためにも、継続的に外国人対応窓口を設置しおもてなしを強化する必要がある。 <p>(外国人観光客ニーズ調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査を実施したところ、「北谷町を知った」媒体としては、Webサイトが全体的に多いことが分かり、Webサイトでの情報発信強化を行う必要がある。 ・パンフレット類の内容強化や公共交通機関の案内に関する多言語化を望む意見が多いことがニーズ調査から把握できたが、現在対応が不十分である。 	<p>(観光情報センター年間利用者人数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後増え続けるであろう外国人観光客に適切に対応するため、継続的に外国人対応窓口を設置し、おもてなしの強化を図るとともに、満足度調査を実施し、次年度以降の業務改善を図る。 <p>(外国人観光客ニーズ調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外におけるプロモーション活動とあわせて、多言語によるWebサイトでの情報発信強化を図る。 ・パンフレット類の内容見直し、観光情報センターにおける公共交通機関案内に関する多言語化を含め、外国人観光客の利便性向上に係る観光振興施策を検討・実施する。
今後の取り組み方針		
<p>(観光情報センター年間利用者人数)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増加する外国人観光客への対応として、多言語対応窓口の設置、多言語観光情報パンフレット等の製作を継続的に実施する。 <p>(外国人観光客ニーズ調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語によるWebサイトでの情報発信を強化する。 ・外国人観光客ニーズ調査を踏まえ、観光誘客や外国人観光客の利便性の向上に係る観光振興施策を検討・実施し、アンケートによる満足度80%以上を目指す。 		

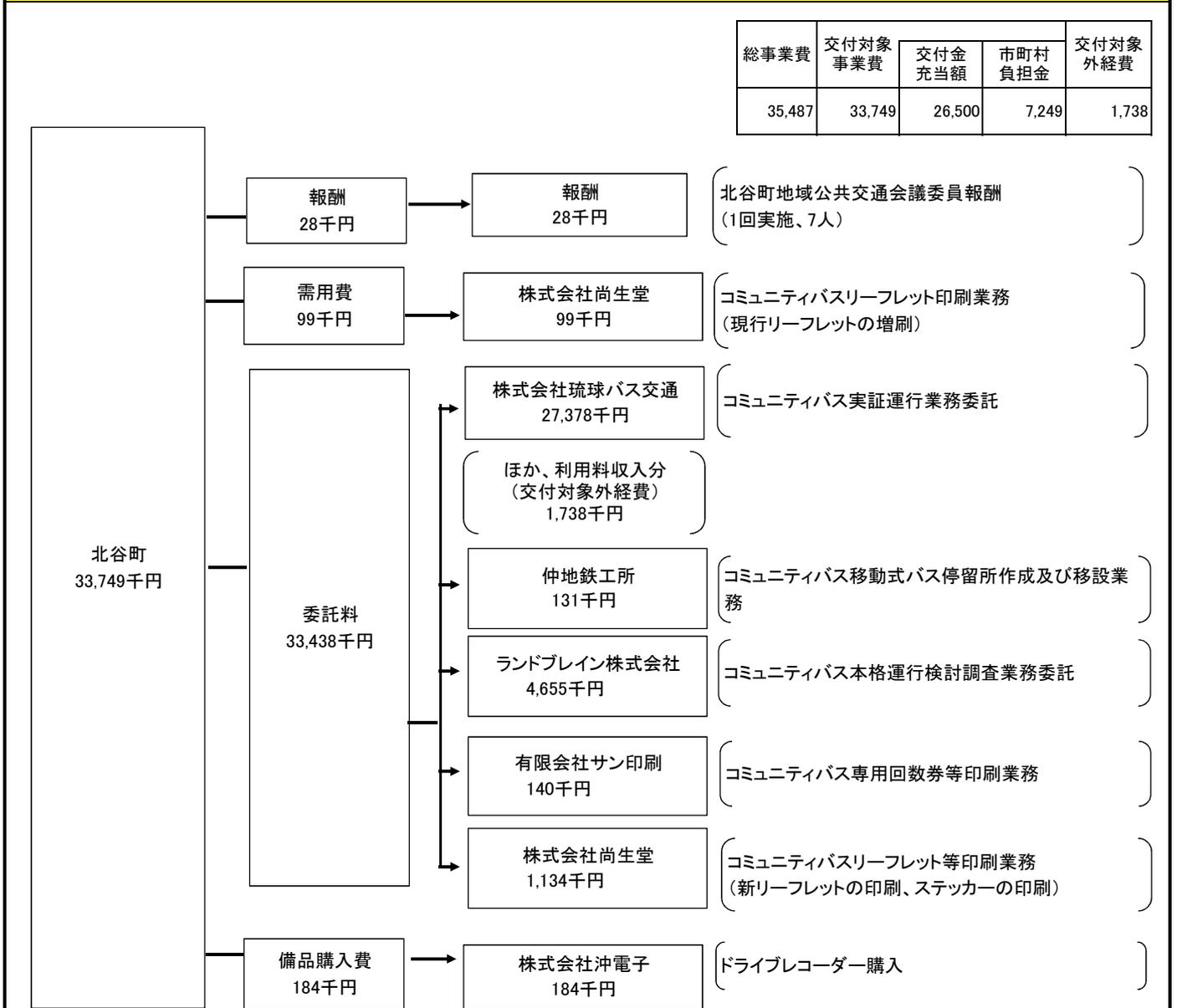
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	12,097	12,097	9,000	3,097	0
北谷町 12,097千円	委託費 12,097千円		一般社団法人 北谷町観光協会 3,996千円	一般社団法人 北谷町観光協会 4,877千円	(株)近代美術 3,224千円
			【観光プロモーション企画運営業務】	【外国人受入強化業務】	【観光誘客強化広報宣伝業務委託】

資金 使途の 流れ 点検 ・ 評価 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○各契約については、地方自治法施行令第167条の2第1項第1号に基づく随意契約であり、妥当であったと考える。 ○不用額は事業費の1%以内であり適正な規模であった。 ○費目・使途については事業の目的を達成するためには最小限必要不可欠なものであったことから、適正であったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	コミュニティバス導入調査検討事業					
担当部署	総務部 企画財政課	事業実施(予定)年度 平成26～令和3年度					
事業内容	観光客や町内交通弱者の利便性・回遊性の向上を図るため、観光施設や商業施設等を周遊するコミュニティバスの実証運行を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	(a) 当初予算額	12,785	11,988	41,252	47,656	48,902	
	(b) 予算現額	8,500	7,215	5,249	37,476	35,030	
	(c) 増減額(b-a)	▲ 4,285	▲ 4,773	▲ 36,003	▲ 10,180	▲ 13,872	
	(d) 繰越額	—	—	—	—	—	
	A. 計(b+d)	8,500	7,215	5,249	37,476	35,030	
	B. 執行済額	8,332	5,968	3,599	33,088	33,749	
	うち交付金充当額	6,200	4,700	2,800	26,300	26,500	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	98.0%	82.7%	68.6%	88.3%	96.3%	
予算の状況の説明	<p>予算減13,872千円については、入札残や運行委託費の減によるものである。 不用額1,281千円は、パンフレット等の印刷委託費や、運行委託費などの精算による減であるが、当初計画した事業内容は全て実施した。</p>						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	コミュニティバスの実証運行を実施し、その効果検証を行う。		目標 (実施)	(実施)	()	()	
実績		実績	実績				
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスの実証運行を実施した。 ・ルートやダイヤを変更し、回数券や無料乗継券の導入を実施した。 ・リーフレットを増刷し、配布を行った。 ・実証運行の報告及び評価検証の場として北谷町地域公共交通会議を開催した。 ・実証運行の評価検証として検討調査業務を実施し、報告書としてとりまとめた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R1年度)
	バス利用者に利便性・回遊性の向上が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標 ()	(80%)	()	()	(80%)
	実績			77.30%			
	目標 ()		()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	<p>ルートやダイヤの変更と共に、回数券や2コース間の無料乗継券などの発行を行い、利便性・回遊性の向上を図ったことで、利用者アンケートによる成果目標の検証結果では、「運行ルート」「運賃」「全般のサービス」の項目にて70%以上の満足度であったが、「運行回数・運行時間帯」の項目で50%を下回った。</p>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数の少ないバス停が複数あり、周遊時間の増長に繋がっている。 ・1周当たりの周遊時間が約1時間30分と長いことにより、1日あたりの運航便数が少なくなり、満足度が低下している。 ・無料乗継券、回数券の導入による利用者の運賃負担の軽減により、「運賃」項目の満足度が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運行ルートの見直しによる一周当たりの周遊時間の縮減、運行便数・時間帯の見直しを行う。 ・見直し基準の設定により、既存のバス停の削減を含めた見直しを図り、周遊時間の縮減につなげる。 ・無料乗継ポイントの増設や、回数券の販売方法を見直し、利用者の利便性向上に努め、満足度の向上につなげる。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・運行ルートの見直しを行い、周遊時間の短縮及び満足度の向上を図る。 ・回数券の販売方法を見直し、利便性の向上を図る。 ・新たな利用者の獲得に向けた利用促進策に取り組む。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、地方自治法第167条の2第1項第2号により随意契約を締結したため妥当であったと考える。 ○当初計画した事業内容は全て実施しており、不用も約4%となっており適正規模であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北谷町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	英語指導助手派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	国際化に対応し、産業振興・観光振興に貢献できる資質・能力を持つ人材を育成するため、各小中学校に1人ずつの英語指導助手(AET)を派遣する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額(b-a) (d) 繰越額 A. 計(b+d)		13,488	13,505	13,346	13,360	13,900
			13,488	13,505	13,346	14,372	14,634
			0	0	0	1,012	734
			-	-	-	-	-
			13,488	13,505	13,346	14,372	14,634
	B. 執行済額 うち交付金充当額 次年度繰越額		12,479	12,476	12,393	13,543	14,129
			9,883	9,300	9,900	10,500	11,000
			0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	92.5%	92.4%	92.9%	94.2%	96.5%
予算の状況の説明	○増額734千円については、小学校の英語の授業時数の増により、英語指導助手の勤務時間が増えたことによるものである。○不用額505千円については、指導助手の途中離職により欠員(1人)が生じたことによるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	小学校4名(各校1名、幼稚園兼務)	目標	(AET配置数4名)	(AET配置数4名)	(AET配置数4名)	(AET配置数4名)	
		実績	AET配置数4名	AET配置数4名	AET配置数4名	AET配置数4名	
	中学校2名(各校1名)	目標	(AET配置数2名)	(AET配置数2名)	(AET配置数2名)	(AET配置数2名)	
実績		AET配置数2名	AET配置数2名	AET配置数2名	AET配置数2名		
達成状況説明	【幼稚園】町立4幼稚園へ小学校の英語指導助手を兼務させ、年12時間以上英語にふれあう時間を設けた。 【小学校】文部科学省指定の教育課程特例校として、英語活動の研究実践を推進するため、町立4小学校に1名ずつの英語指導助手を配置し、普段からネイティブの発音に親しませるとともに、授業(1・2年は年12時間、3・4年は年35時間、5・6年は50時間)において、「聞く」「話す」活動の中でネイティブによる発音を生かした指導を行った。 【中学校】町立2中学校に1名ずつの英語指導助手を配置し、英語教師とのチームティーチングの中でネイティブな発音による指導を行った。また、英語に関する行事について、教師と協力して活動したり、生徒への指導援助を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	小学校:児童の英語への興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%以上)	()	()	()
		実績		79.7%			
	中学校:沖縄県学力到達度調査(英語、2月実施)の本町の平均正答率が、県の平均正答率との差△2.8%以内。	目標	()	(△2.8%以内)	()	()	()
		実績		△1.2%			
進捗状況説明	【小学校】 ・学習した会話を活用し、「聞く」ことと「話す」ことを重点に指導を行った。英語に関するアンケートの設問において、「聞くことは楽しいか」「話すときは楽しいか」「もっと英語を話せるようになりたいか」「英語の文字を読みたいか」の4つの興味関心に関する質問に対し、「あてはまる」と答えた児童(3~5年生)79.7%であった。 【中学校】 ・導入におけるルーティーンとして、英語による質問(あいさつ、月日、天気等)に対する受け答え、ペアーによる基本文型の発表の仕方を統一して継続実施。英語に対するスキルと基本事項の定着を図った。県到達度調査の結果、県平均に対し△1.2%と目標を達成できた。 ・町内の中学校の生徒が2年連続で、沖縄県英語スピーチコンテストで最優秀賞を獲得し全国大会へ参加した。(昨年とは異なる中学校)						

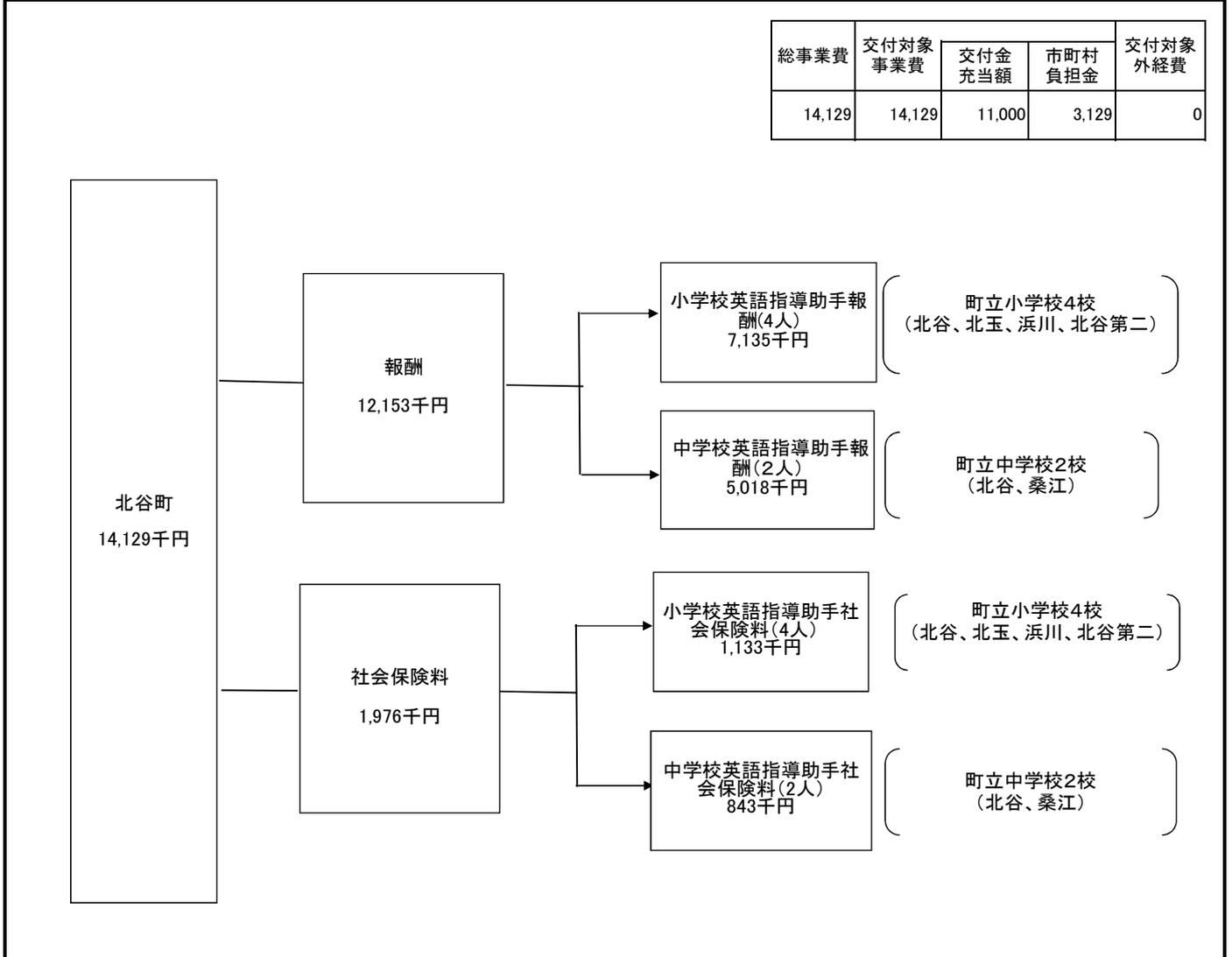
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	【小学校】 ・令和2年度に新学習指導要領による英語科の教科化が本格実施(3・4年:35時間、5・6年:70時間)される。現在の英語指導助手の勤務時間では、対応できない可能性がある。 ・学習内容の確認、新たな教具等の作成等も引き続き取り組んでいく必要がある。	【小学校】 ・令和元年度中に、次年度の学級数等を把握しながら、どのような勤務時間であれば、対応できるのかの検討を行う必要がある。 ・教科書の内容に対応し、有効な教具等、研修会や講演会を通して学ぶ機会を引き続き設ける必要がある。
	【中学校】 ・小学校の新学習指導要領による英語科の教科化により、小学校英語科の学習内容を把握し、小から中へスムーズにつなぐことが大切となる。	【中学校】 ・小学校同様に、学習内容の確認をしっかりと行うことが必要である。

今後の取り組み方針

【小学校】
 ・英語を使った会話の活用について、体験を通して興味・関心を高める機会として、電子映像会議方式によるオーストラリアの小学校との授業交流を行う。
 ・町主催の英語担当教師研修会、英語指導助手研修会の中で、引き続き新学習指導要領における英語科の学習内容や有効な教具等について情報共有を図ったり、講師を招聘し学習する機会を設ける。

【中学校】
 ・各学校の有効な手立てを取り入れた英語授業スタンダードに対し、各校共通実践を図るとともに、町主催の英語担当教師研究会で、その実践を通して見える、良さや改善点を確認し、改善を加え取り組んでいく。
 ・小学校が講師を招聘し学習する場に、引き続き中学校からも英語指導助手を参加させ合同研修会として、新学習指導要領における学習内容等を学ぶ機会を設ける。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○英語指導助手への応募者を面接し採用しているため、支出先の選定方法は妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○報酬及び社会保険料については、北谷町特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則に基づいた金額であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北谷町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	学力向上学習支援員派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進		
事業内容	学習に遅れをとっている児童生徒に対して、授業内容をきめ細やかにサポートする学習支援員を配置し、自ら学ぶ意欲を高め、基礎的、基本的な学習内容を理解させることで、学習環境の充実・強化を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況 (a) 当初予算額 (b) 予算現額 (c) 増減額 (b-a) (d) 繰越額 A. 計 (b+d)		15,445	14,290	16,271	16,387	16,462
			15,445	16,016	16,271	16,387	15,868
			0	1,726	0	0	▲ 594
			-	-	-	-	
		15,445	16,016	16,271	16,387	15,868	
	B. 執行済額	12,862	15,825	16,157	16,274	15,083	
	うち交付金充当額	10,289	12,400	12,500	12,800	12,000	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率 (%) (B/A)	83.3%	98.8%	99.3%	99.3%	95.1%	
予算の状況の説明	○学力向上学習支援員の途中離職により欠員(2人)が生じたため594千円を補正減した。また、小学校で行われた運動会の勤務について、交付対象外(49千円)とした。						
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	小学校4名(各校1名)	目標	(配置数4名)	(配置数4名)	(配置数4名)	(配置数4名)	
		実績	配置数4名	配置数4名	配置数4名	配置数4名	
	中学校2名(各校1名)	目標	(配置数2名)	(配置数2名)	(配置数2名)	(配置数2名)	
		実績	配置数2名	配置数2名	配置数2名	配置数2名	
達成状況説明	○小学校では、算数科の授業を中心に、中学校では中学1年生の数学科の授業にチームティーチングの授業形態で、教師と協力しながら児童生徒への助言および、理解が不十分な児童生徒を支援し、個に応じたきめ細かな指導の援助を行った。 ○各学校で放課後や長期休み時の、計画的な補習指導に活用された。 ○児童生徒の休み時間等に、児童生徒からの質問に答えたり、定着していない児童生徒へ支援を行った。 ○テストや調査の採点、教師の指示による教材・教具の作成を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	沖縄県学力到達度調査(算数・数学、2月実施)の本町の平均正答率が、県の平均正答率との差 小学校△1.8%以内	目標	()	(△1.8%以内)	()	()	()
		実績		0.70%			
	沖縄県学力到達度調査(算数・数学、2月実施)の本町の平均正答率が、県の平均正答率との差 中学校0.2%以上	目標	()	(0.2%以上)	()	()	()
		実績		△0.8%			
	進捗状況説明	○小学校では、北谷町ニライっ子実践9項目(授業を行う上でのスキル)に基づいた授業改善が進むとともに、学力向上学習支援員を活用することで、子どもたちの学力の定着が図られてきた。県到達度調査で、県平均に対し+0.7%と目標を達成することができた。 ○中学校では、北谷町ニライっ子実践9項目に基づいた授業改善が進みつつある。学力向上学習支援員を活用することで、子どもたちの学力の定着が図られてきた。課題であった県平均との差△10%程度の学校・学年も△5%に縮まってきた。全体では、県到達度調査で、県平均に対し△0.8%と目標に届かなかった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>○中学校で目標値に届かなかったのは、2学年が△5%だったため。1学年は県平均を超えることができた。</p> <p>○小学校においては令和2年度、中学校においては令和3年度に新学習指導要領が本格実施となる。</p> <p>○新学習指導要領では、「主体的・対話的な深い学び」のある授業が求められており、お互いの考えを共有しながらさらに考えを深める授業となってくる。</p> <p>○そのような授業の中で、学力向上学習支援員がどのように子どもたちを支援していくのかを課題となってくる。</p>	<p>○2学年は、1学年時の△10%から△5%と伸びが見られ、1学年も県平均を超えることができたことから、現在の取組は効果性があると考えられ、今後とも授業改善等の取組を継続推進する。</p> <p>○学力向上学習支援員へも、新学習指導要領の趣旨を理解させる必要がある。</p> <p>○町学力向上学習支援員研修会で、新学習指導要領への変更に伴う支援の方法についてをテーマに研修を行う必要がある。</p> <p>○引き続き、諸学力調査結果の分析を丁寧に行い、つまずきの原因や指導方法の課題をさぐり、その解決方法を学力向上学習支援員を含めた教師全体で研究することが大切である。</p>

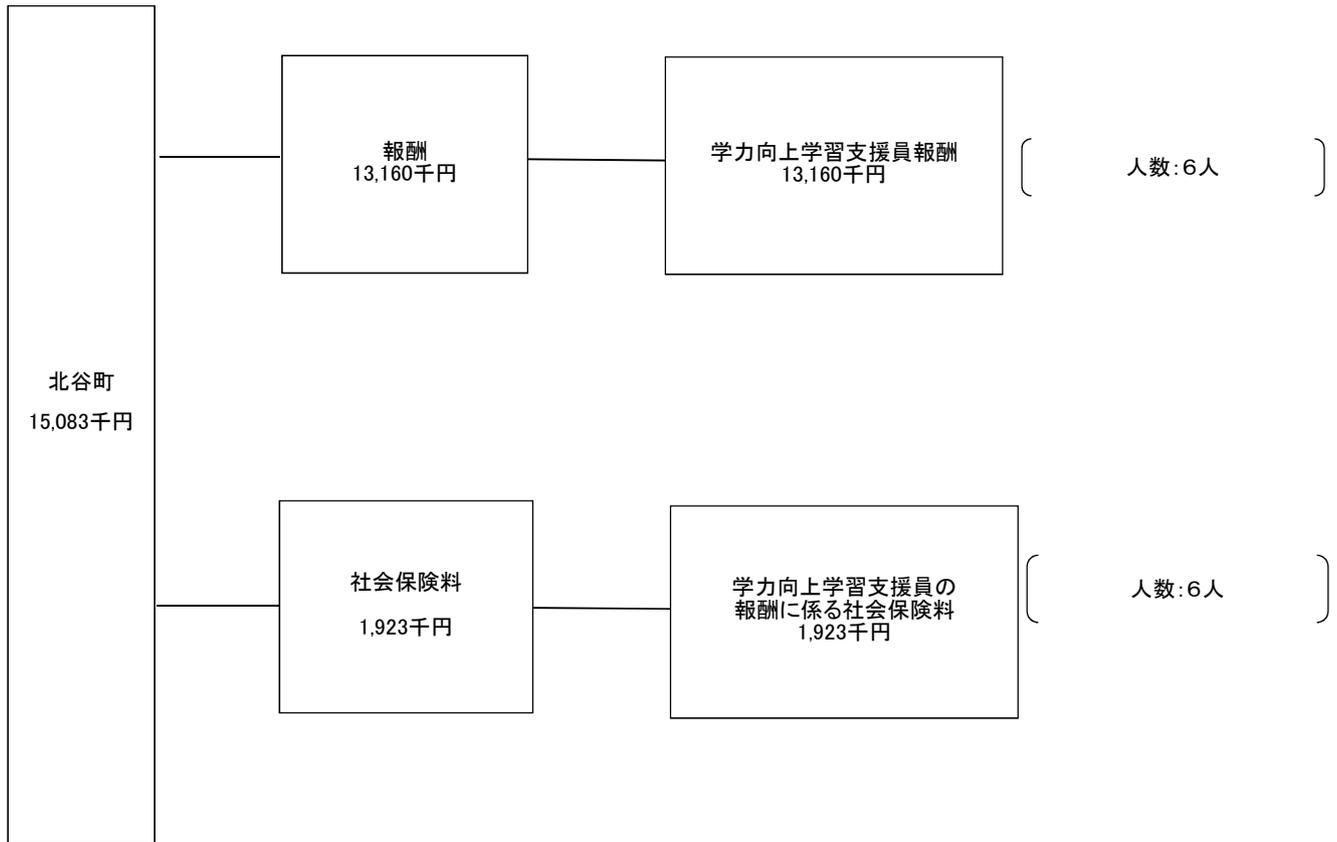
今後の取り組み方針

○町学力向上学習支援員研修会を年3回実施し、新学習指導要領の趣旨・方向性等の理解を深めるとともに、変更に伴う支援の方法について、実践内容等を持ち寄り、検討を加える等、よりよい支援方法の研修を深める。

○学力調査結果を分析するだけでなく、課題のある単元や問題、つまずきの原因や指導方法の課題等について、学力向上学習支援員を含めた職員で確認し合う場を、小学校では学年会、中学校では教科部会の中に設定する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
15,137	15,083	12,000	3,083	54



資金の流 れ、 点 検 、 費 目 ・ 使 途	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○北谷町学力向上学習支援業務委託員設置要綱に基づき、学力向上学習支援の業務に適すると認められる者を委嘱しており、支出先の選定は妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○北谷町特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業内容から判断して、すべて目的に即し、必要なものであった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	スクールソーシャルワーカー派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部課名	教育委員会 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進	
事業内容	スクールソーシャルワーカーを配置し、小中学校を巡回し、児童生徒のおかれた様々な環境の問題(家庭、友人環境等)に働きかけ、問題を抱える児童に対して問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努める。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,074	3,091	3,456	3,477	3,489
		(b) 予算現額	3,074	3,481	3,456	3,477	3,475
		(c) 増減額(b-a)	0	390	0	0	▲ 14
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	3,074	3,481	3,456	3,477	3,475
	B. 執行済額		3,073	3,398	3,418	3,436	3,449
	うち交付金充当額		2,408	2,700	2,600	2,500	2,500
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	97.6%	98.9%	98.8%	99.3%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容について、適正に執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	スクールソーシャルワーカー配置:1名		目標 (配置:1名)	(配置:1名)	(配置:1名)	(配置:1名)	
実績		配置:1名	配置:1名	配置:1名	配置:1名		
達成状況説明		○教育委員会に1名配置した。 ○町内小中学校に在籍している児童生徒やその保護者の困り感(いじめ、不登校、情緒的不安、経済的不安等)に、相談活動を通して、適宜助言を与えたり、心の拠り所にさせたり、必要があれば関係機関へ繋ぐ活動を行った。 ○中学校の生徒指導部会、各学校の個に応じたケース会議に参加し、情報を共有するとともに、対応方法の助言を行った。 ○本町が進める学びのプロジェクトの取組、スマイルプログラム(人間関係のスキルの構築に係る取組)に関する町内の教職員を対象とした研修会において講師として活用、各教師への取組内容の周知、取組方法の実習等の指導を行った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	町立小中学校の問題行動(暴力、喫煙、家出等)件数 ・小学校 8件以内	目標	()	8件以内	()	()	()
		実績		6件			
	・中学校 19件以内	目標	()	19件以内	()	()	()
		実績		11件			
進捗状況説明		○「スマイルプログラム」(体験を通じた人間関係づくり)を推進した。 ○「組織的・計画的な指導援助システム」(子の状況を3段階に分け、それぞれに対する支援の方法等を示したもの)について、研修会や会議等で先生方へ周知し、取組方法の指導を行った。 ○各学校とも、問題行動が昨年度より減少し、小学校、中学校ともに目標を達成した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>○「スマイルプログラム」「組織的・計画的な指導援助システム」における取組が、スクールソーシャルワーカーの指導や助言により浸透し、問題行動の減少につながった。</p> <p>○新たな問題として、不登校の増加が見られ、スクールソーシャルワーカーの関わりが増加してきた。</p> <p>○問題行動や不登校については、子どもだけでなく保護者も課題を抱えており、対応に困っている場合が多い。</p>	<p>○町全体研修会を始め、各種の町研修会、各学校での研修会や会議等で先生方への指導、助言を今後も充実させ、取り組んでいく。</p> <p>○不登校に対しては、不登校の兆候を早期に捉え対応することが重要なため、不登校の兆候とはどういうものかを各学校で共通理解し、早期に捉えることが大切。その上で、気になる児童生徒へのスクールソーシャルワーカーによる個別指導と個別援助へつなげる必要がある。</p> <p>○スクールソーシャルワーカーがペアレントトレーニング(親の子への関わり方のトレーニング)の手法を各学校の職員へ指導し、活用できるようにする必要がある。</p>

今後の取り組み方針

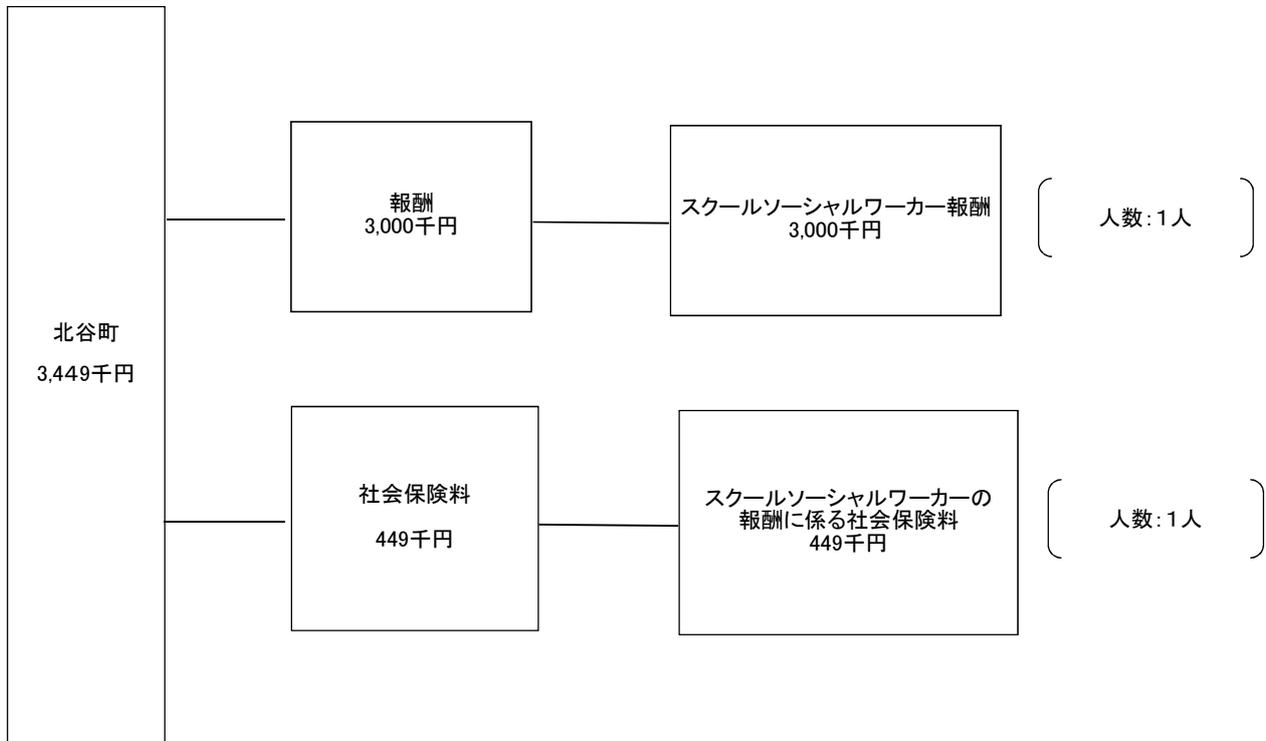
○今後も「学びのプロジェクト」における「スマイルプログラム」「組織的・計画的な指導援助システム」における取組を進めるにあたり、スクールソーシャルワーカーの指導・助言を加えながら取組を充実させる。

○週1回や月3回、連続2日とう具体的な数値を挙げて、不登校の兆候として捉える。兆候が見られた場合、どのように対応していくか具体的な方法を策定するとともに、スクールソーシャルワーカーによる助言をもとに指導につなげる。

○町の研修会等で、学校の職員にペアレントトレーニングの手法について、スクールソーシャルワーカーから指導を行い、ペアレントトレーニングのできる学校職員の育成を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,449	3,449	2,500	949	0



資金の流 れ、 検 査 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○北谷町スクールソーシャルワーカー業務嘱託員設置要綱に基づき、スクールソーシャルワーカーの業務に適すると認められる者を委嘱しており、支出先の選定は妥当である。 ○北谷町特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する規則に基づいた予算であり、適正な規模であった。 ○事業内容から判断して、すべて目的に即し、必要なものであった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北谷町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④		北谷町ハワイ短期留学派遣事業		沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
	担当部課名	教育委員会 社会教育課		事業実施(予定)年度		平成25~令和3年度	国際社会、情報社会に対応した教育の推進
事業内容						III-3-(1)	
	本町の中高生をハワイへ短期留学させ、語学学習やホームステイを通して英語力の向上を図りながら、ハワイの北谷嘉手納町人会との交流会により海外で活躍しているウチナーンチュとの親睦を図り、世界的な視野を持った人材を育てる。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,310	6,850	6,296	5,827	6,129
		(b) 予算現額	5,745	6,004	5,670	5,974	5,197
		(c) 増減額(b-a)	▲ 565	▲ 846	▲ 626	147	▲ 932
		(d) 繰越額	-	-	-	-	-
		A. 計(b+d)	5,745	6,004	5,670	5,974	5,197
	B. 執行済額		5,745	6,004	5,670	5,974	5,197
	うち交付金充当額		4,596	4,800	4,500	4,700	4,000
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100%	100%	100%	100.0%
予算の状況の説明		当初計画時においては、沖縄タイムス主催の海外ホームステイ派遣を見込んでいたが、語学先やホームステイ先を独自で探すことができ、経費を節減できたため、予算932千円の減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	中・高校生ハワイ短期留学派遣:15人		目標 (派遣15名)	(派遣15名)	(派遣15名)	(派遣15人)	
			実績	派遣15名	派遣15名	派遣15人	
	派遣生の事前研修		目標 ()	()	(実施)	(実施)	
			実績		実施	実施	
	派遣後の事後報告会及び報告書の作成		目標 ()	()	(実施)	(実施)	
		実績		実施	実施		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 派遣生徒15名の募集に対し、28名の応募があり、日本語・英語面接、作文の選考試験を実施した。 事前にAETによる英語の研修会を8回実施したため、北谷嘉手納町人会とのピクニック交流会や各家庭でのホームステイ体験がスムーズに実施できたとともに、事後報告会の実施や報告書を作成することで、当初の目標の達成を確認できた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	保護者へのアンケートで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じた割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。		目標 ()	(80%)	()	()	()
			実績	100%			
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ハワイ短期留学の効果を検証するために、派遣後に保護者へのアンケートを実施したことで、帰国後、生徒の国際的な視野がより広まったと感じた割合が80%以上であることから、当初の目標の達成を確認できた。 派遣生へもアンケートを実施したところ、「英文科系がある高校へ進学希望」、「海外大学に進学希望」、「将来は英語を活かせる仕事がしたい」、「コミュニケーションをとることに自信がついたので、中国語検定にチャレンジしたい。」など、将来に対する目標を把握することができた。 						

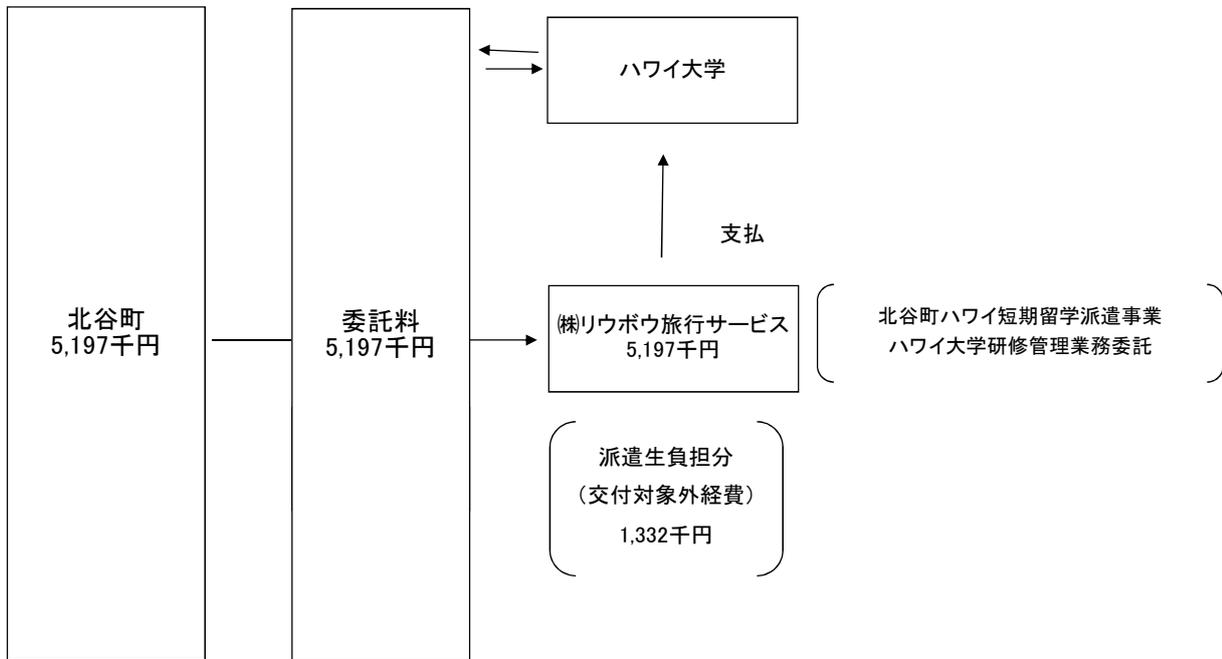
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ホームステイは、北谷町及び嘉手納町出身者で構成する北谷嘉手納町人会の家庭になり、本町と親交があり、事業の趣旨を理解している人がホームステイ先になったため、派遣生の国際的な視野がより広まったと考える。 平日はハワイ大学の学生寮での滞在、週末のみホームステイに変更したため、ホームステイ先の確保ができた。 派遣生に対するアンケートにより、一部の生徒から「授業レベルが合わない。」との指摘がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 選考試験を今よりも早期に実施し、派遣生を決定することで、北谷嘉手納町人会のホームステイ先を確保する。 「ハワイ大学での授業レベルが合わない。」という派遣生に対しては、英検取得状況及び英語運用能力について把握し、大学側と調整のうえで講義レベルを決定する。

今後の取り組み方針

- ・選考試験を今よりも早期に実施し、派遣生を決定する。
- ・平日はハワイ大学の学生寮での滞在、週末のみ北谷嘉手納町人会の家庭にする。
- ・沖縄県からハワイへ移住した移民の歴史を学習し、ハワイ沖縄連合会との連携を深めるとともに、北谷嘉手納町人会とのネットワークを広げていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,529	5,197	4,000	1,197	1,332



資金の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ○委託事業者の契約については、地方自治法施行令167条の2第1項第6号に基づき随意契約されており、妥当である。 ○語学研修及びホームステイの節減できた費用については減額をしており、不用額は生じず適正な規模であった。 ○受益者である派遣生は総事業費の約3割を負担しており、事業内容から判断して妥当であった。 ○費用・用途については、主に航空運賃及び現地費用であり、真に必要なものに限定されている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北谷町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤	北谷町電子黒板整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部課名	教育委員会 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-1-(1)		
事業内容	町内の4小学校2中学校の普通教室、理科教室、特別支援教室に電子黒板を設置し、動画、書き込み機能等を活用したわかりやすい授業環境を整え、学力の向上を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和元年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H30年度				
	予算の状況	(a) 当初予算額	110,277				
		(b) 予算現額	92,880				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 17,397				
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	92,880				
	B. 執行済額		92,880				
	うち交付金充当額		74,000				
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		入札残17,397千円を補正減した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度				
	電子黒板の整備	目標	(127 台)	()	()	()	
	実績	127 台					
達成状況説明	スケジュール通り、11月末までに各小中学校の教師用ノートPCへのソフトウェアのインストールを行い、12月上旬までに電子黒板を各小中学校へ納品し、12月末までに検査を完了し、各小中学校で研修会を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度		目標値(R1年度)	
	電子黒板の整備完了	目標	()	(完了)	()	()	
		実績		完了			
	【R1成果目標】 児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったか(80%以上)を含め、本事業のあり方を検証する。		目標	()	()	()	(80%)
			実績				
	【R1成果目標】 教員にアンケートを実施し、ICT機器の習熟度が上がったか(80%以上)を含め、本事業のあり方を検証する。		目標	()	()	()	(80%)
			実績				
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の予定通り、小学校の普通教室72台、特別支援教室12台、理科室4台、計88台。中学校:普通教室29台、特別支援教室6台、理科室4台、計39台。小中学校、計127台の電子黒板の整備を完了し、わかりやすい授業展開が行える環境を整えることができた。 ・納品後、現在はデジタル教科書、児童・生徒の作品の投影、スクイブを利用した海外との交流等各教科の授業で活用しているところである。 						

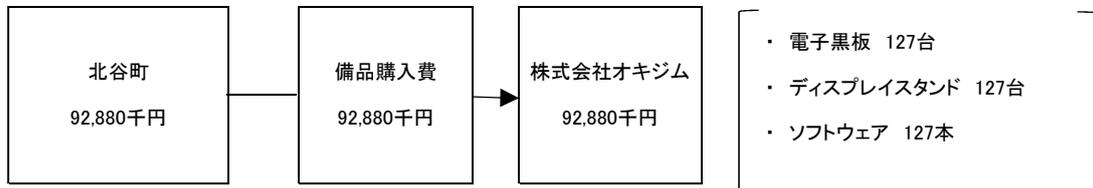
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業により整備する電子黒板は、普通教室、特別支援教室及び特別教室(理科室)に配置しており、その機能は、指導者用PCと接続し大きく映す提示機能、教室後方からの視認性を考慮したサイズ、インタラクティブ機能等を検討して定めており、適切に実施できたと考ええる。(「平成30年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」を参考) ・業者、教育委員会、小中学校の管理者と事前に、電子黒板の設置の高さ、納品日、運搬方法、安全配慮等を確認し、スケジュール通りに設置、納品、検査、研修会を実施した。 	<p>電子黒板の活用については、納品後各学校で研修会を実施することで円滑に授業への導入を図れており、改善の必要はないものと考えられる。</p>

今後の取り組み方針

- ・児童生徒にアンケートを実施し、ICT機器を活用した授業が分かりやすかったかを含め、本事業のあり方を検証する。
- ・教員にアンケートを実施、ICT機器の習熟度が上がったかを含め、本事業のあり方を検証する。
- ・学校現場において、整備した電子黒板を積極的に活用し、わかりやすい授業実践に向け取り組む。
- ・従来から引き続きICT支援員を配置、教員向けの研修会及び教員同士の機器使用検討会を実施し、機器使用習熟度向上に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
92,880	92,880	74,000	18,880	0

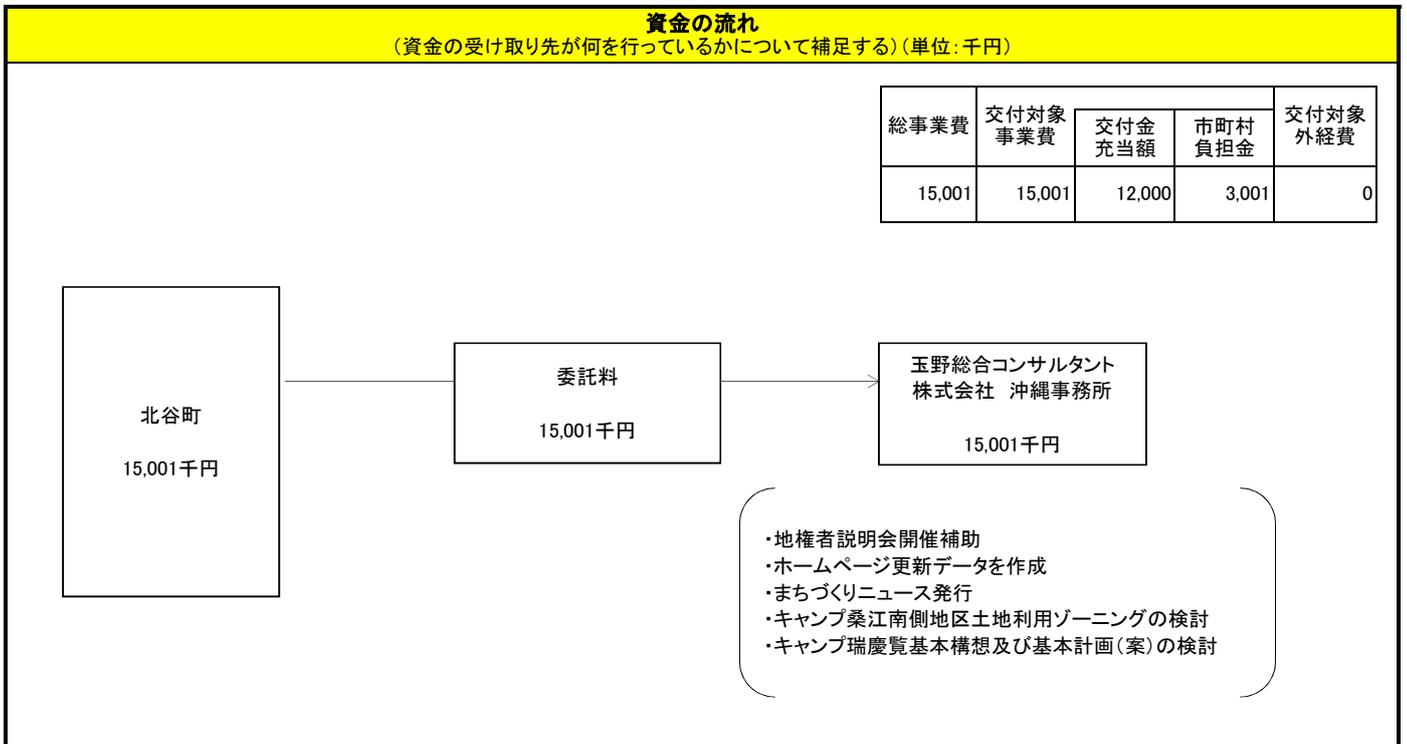


資金の用途の流れ、点検、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○購入業者は安定した品質、運用を重視する観点から導入実績のある業者を指名競争総入札で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○予算規模は、入札残による事業費減額はあったが、不用額が発生せず適正な規模であった。</p> <p>○費目、用途については生産段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北谷町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	跡地利用推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア		
担当部課名	総務部 企画財政課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組		
事業内容	今後返還が予定される駐留軍用地の有効かつ適切な跡地利用計画策定に向けた跡地利用推進調査及び地権者に対する説明会等を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R2年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	12,604	26,396	22,778	18,630	17,090
		(b)予算現額	7,614	15,509	12,993	14,278	15,001
		(c)増減額(b-a)	▲4,990	▲10,887	▲9,785	▲4,352	▲2,089
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	7,614	15,509	12,993	14,278	15,001
	B.執行済額		7,614	13,554	12,992	14,277	15,001
	うち交付金充当額		6,091	10,800	10,000	11,400	12,000
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	87.4%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初予算より2,089千円減額となったのは、当初予定していたキャンプ瑞慶覧コリドー地区における跡地利用基礎調査の取りやめ等の業務内容の見直しによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	キャンプ桑江南側:地権者への継続的な情報提供	目標	(地権者説明会の実施)	()	()	()	
		実績	1回実施				
	キャンプ瑞慶覧倉庫地区:跡地利用基本構想策定(まちづくりに向けた基本方針等)	目標	(実施)	()	()	()	
		実績	実施				
	キャンプ瑞慶覧コリドー地区:跡地利用基礎調査の実施(跡地利用に関する基礎的條件の整理等)	目標	(実施)	()	()	()	
実績		未実施					
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ桑江南側地区における先行取得事業、跡地利用計画に関する情報提供及び意見交換を目的とした地権者説明会(1回)を行った。 ・キャンプ瑞慶覧倉庫地区における返還に向けて、地権者説明会(1回)を行い、合意形成を図った上で、跡地利用基本構想の策定を行った。 ・キャンプ瑞慶覧コリドー地区においては、返還範囲の拡大について継続的に要請を行う予定であったため、既存の返還予定地での基礎調査は不要と判断し、調査を見送った。 						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値 (年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値 (年度)	
	跡地利用基本構想の策定(キャンプ瑞慶 覧倉庫地区)の完了	目標	()	(完了)	()	()	()	()
		実績			完了			
	跡地利用基礎調査の完了(キャンプ瑞慶 覧コリドー地区)	目標	()	(完了)	()	()	()	()
		実績			未実施			
	【R2成果目標】 跡地利用計画(素案)策定後、当該跡地利 用計画に対する町民、県民や地権者等の 「肯定的な評価」80%以上	目標	()	()	()	()	(80%)	()
実績								
進 捗 状 況 説 明	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ瑞慶覧倉庫地区における返還に向けて、地権者説明会を行い、合意形成を図った上で、跡地利用基本構想の策定を行ったことにより、跡地利用に向けた地権者の機運醸成に寄与した。 ・キャンプ瑞慶覧コリドー地区においては、返還範囲の拡大について継続的に要請を行う予定であったため、既存の返還予定地での基礎調査は不要と判断し、調査を見送った。 							

取組の 検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	跡地利用基本構想の策定を完了することができた。整備主体については、基本構想の段階では、地権者との合意形成が出来ていない。	町における地権者への支援策を具現化し、勉強会において、町及び地権者の役割分担(例 整備主体→地権者、関係機関との調整→町 など)を明確にする必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・地権者勉強会において、町及び地権者の役割分担を明確にした上で、整備主体を決定する。 ・整備主体を決定した上で、跡地利用計画を策定し、地権者説明会にて地権者との合意形成を図る。 		



資金 使 途 の 流 れ 検 査 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札で選定されており、選定方法は妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については業務完了後に検査を実施しており、目的に即し適正なものであったと判断した
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

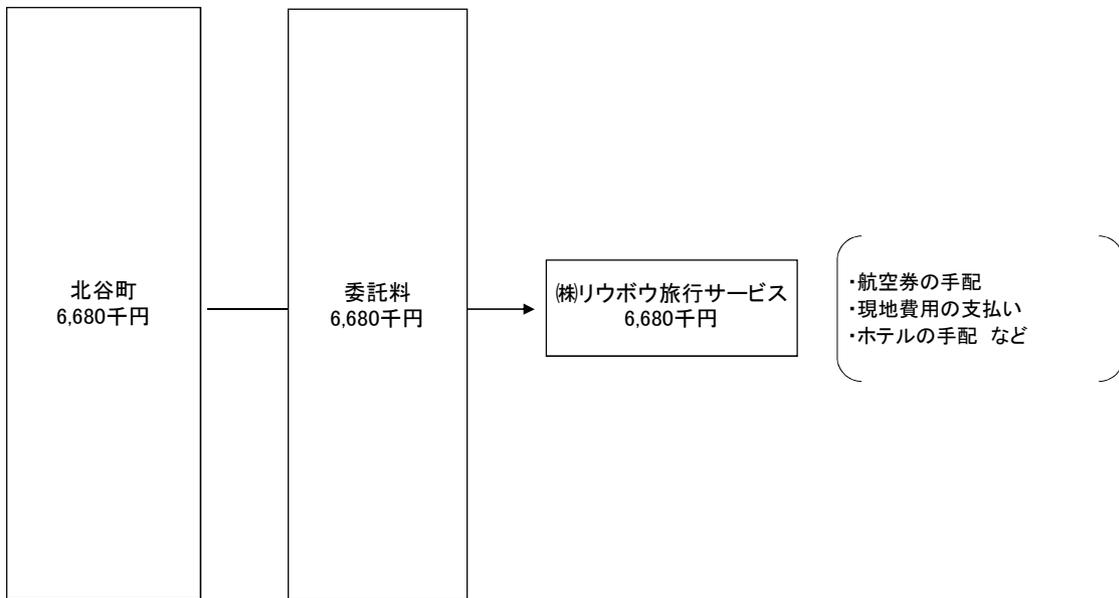
市町村名	北谷町						
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	国際交流派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	3-1-(4)-エ		
担当部課名	教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際ネットワークの形成と多様な交流の推進 Ⅲ-3		
事業内容	海外と本町との繋がりを強めるため、ハワイへ町内無形文化財保存団体を派遣し、ハワイの県人会、町人会との交流会を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,856				
		(b) 予算現額	7,187				
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,669				
		(d) 繰越額	-				
		A. 計(b+d)	7,187				
	B. 執行済額		6,680				
	うち交付金充当額		5,300				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		92.9%				
予算の状況の説明		当初計画時においては、青年会35名の派遣を見込んでいたが、32名の派遣になった。また、入札執行残により予算1,669千円の減額を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	・フェスティバル参加(演舞2回)	目標	(実施)				
		実績	実施				
	・県人会、町人会との交流	目標	(実施)				
実績		実施					
達成状況説明	・ハワイオキナワフェスティバルやアロハパーティー(交流会)において演舞を2回実施するとともに、県人会や町人会と交流できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	交流会参加者へのアンケートにおいて、海外と本町との繋がりが強まった割合(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目標	(80%)				
		実績	97%				
	交流会参加者数	目標	(150人)				
		実績	720人				
進捗状況説明	・派遣者及び現地の県人会・町人会へのアンケートでは、当初の目標である海外と本町との繋がりが強まった割合80%以上を達成できた。 ・交流会の参加者は150人以上となり、当初の目標を大幅に上回った。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>(海外と本町の繋がりは強まった)</p> <p>・交流会を通して、現地でのハワイ沖縄プラザ落成記念式典のオープニングアクトを務めるなど、信頼を得ることができた。また、青年会は県内外の有名アーティストと海外で同じ舞台に立つことができ、その反響の大きさに触れることができたことが、海外で演武する自信につながり、国際的な視野を広げることができた。</p> <p>(交流会参加者数)</p> <p>・同日、会場近隣において県系人・日系人をメインとした大イベントがあり、相乗効果で目標としていた参加者数を大幅に上回った。</p>	<p>(海外と本町の繋がりは強まった)</p> <p>・日本語はあまり通じないため、深い内容のコミュニケーションがとれるよう、渡航前に英会話レッスンを行うことを検討する。</p> <p>(交流会参加者数)</p> <p>・大勢の方に北谷町の郷土芸能を披露することができ、交流することができた。</p>

今後の取り組み方針	
<p>(海外と本町の繋がりは強まった)</p> <p>・毎年ハワイへ高校生を派遣しており、町人会・県人会とは良好な関係を築くことができていることから今回のオキナワフェスティバルの出演に繋がったと考えている。本事業は今年度で終了するが、ハワイ短期留学派遣事業を継続しつつ定期的に沖縄で開催される世界のウチナンチュ大会では町人会との交流会を実施するなどして海外との交流を推進する。</p> <p>(交流会参加者数)</p> <p>・本事業の目標は海外と本町の繋がりの強化であり、交流会参加者数を成果目標とすることは目的にそぐわないため、参考指標に留め、次の機会には別の指標を設定する。</p>	

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,186	6,680	5,300	1,380	506



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者の契約については、地方自治法施行令167条の2第1項第1号に基づき、指名競争入札されており、妥当である。</p> <p>○派遣人数の減により生じた不用は減額補正を行っており、予算規模は適正であった。</p> <p>○費用・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に則し、真に必要なものに限定されていると判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		北谷町					
平成30年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	北谷町特定駐留軍用地内土地取得基金事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-ア		
担当部課名	総務部 企画財政課		事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	早期の事業着手に向けた取組	
事業内容	駐留軍用地跡地の有効かつ適切な跡地利用を推進するため、基金を活用して特定駐留軍用地内の土地の先行取得を実施する。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	予算の状況	(a)当初予算額	253,000	303,000	150,000	273,250	400,000
		(b)予算現額	550,000	750,000	655,000	391,250	700,000
		(c)増減額(b-a)	297,000	447,000	505,000	118,000	300,000
		(d)繰越額	-	-	-	-	-
		A.計(b+d)	550,000	750,000	655,000	391,250	700,000
	B.執行済額		550,000	750,000	655,000	391,250	700,000
	うち交付金充当額		440,000	592,535	516,000	311,300	557,900
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		実際に申出のあった地権者からの要望に弾力的に対応するために、土地取得に係る所要額を早期に積立てる必要があることから、予算300,000千円を増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H30活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	基金の積立	目標	(基金の積立)	()	()	()	
		実績	700,000千円				
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	基金の積立額については、700,000千円を積立した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H30成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(年度)
	特定事業の用に供する土地取得目標 3,543㎡(達成率約66%)	目標	()	(66%)	()	()	()
		実績		63.7%			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	土地取得は1,348㎡(63.7%)となり、目標値に届かなかった。						

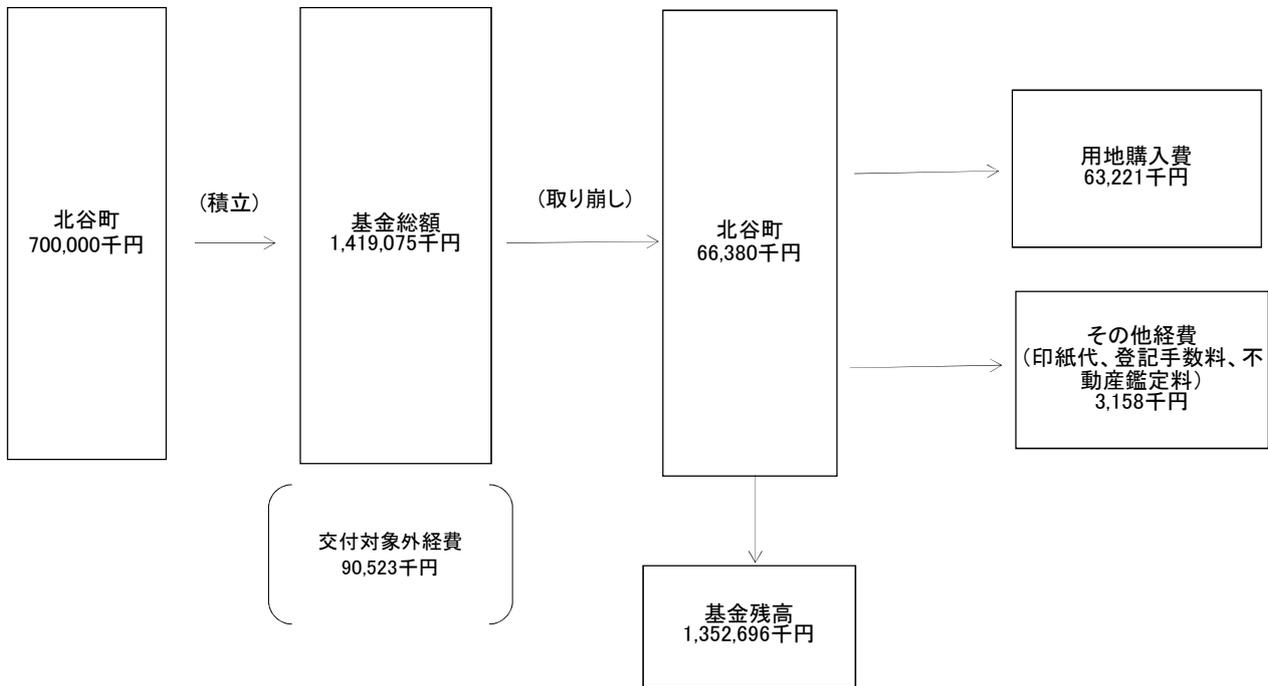
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>目標に届かなかった理由として周知不足が考えられる。学校用地については、平成26年度から先行取得を行っており、制度が広まっているため、計画通り取得できている。緑地・公園用地は平成28年度から開始しているが、学校用地ほど認知されておらず、目標よりも少ない取得となっている。そのため特定事業の用地に供する土地全体の取得目標としても達成に至らなかった。</p>	<p>これまで継続的に文書発送による周知を行ってきたが、内容については誤解されている地権者がいることから、制度の概要及び地権者の保有地が先行取得対象地であることの説明をする必要がある。</p>

今後の取り組み方針

先行取得の進捗が鈍化している緑地・公園用地に該当する土地を保有している地権者に対しては、既存の文書発送による周知に加え、個別訪問を行う。個別対面による説明を行うことで、土地売却意欲の促進に繋げる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
790,523	700,000	557,900	142,100	90,523



資金の 使途の 流れ、 検 査 費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○基金積立事業であり、預入先などの選定は基金運用検討委員会にて適切に行っており、妥当であると考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事業内容に見合った適正な規模で確保されており、妥当である。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により、確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	